

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立津谷中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒986-0731
宮城県気仙沼市本吉町津谷字桜子2番地

E-mail : tsuya-chu@kesenuma.ed.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 80 名 女子 64 名 合計 144 名
 児童・生徒の年齢 13 歳～ 15 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

①実践の概要

津谷地区では、昨年度に引き続き無形民俗文化財（市指定）の山田大名行列や大小様々な打ち囃子など、地域住民の伝統文化の継承・保存活動があり、各種祭りの実施等で地域コミュニティを活性化させてきた。しかし、地域社会の過疎化、高齢化が一層進み、継承断絶の危機が大きな課題になっていた。

このことを受け、持続可能な地域社会を考え、若手継承者の育成に取り組む視点から下川内けんばやし保存会と協働で伝統芸能伝承活動「御岳太鼓」の実践を柱に行なっている。

現在は、生涯学習の基礎を培うための地域人材を活用した協働実践を継続しながら、生徒のコミュニケーション能力や表現力、地域に貢献しようとする態度を養わせることをねらいとして、第1学年では地域を知る探究活動「ディスカバーTSUYA」、第2学年では、御岳太鼓に係る打ち囃子の練習を通して地域の人々とかかわる実践活動、第3学年では、2年時からの実践を生かし、打ち囃子の演奏を通して地域社会に貢献する活動に取り組んでいる。

②実践の成果と課題

1) ねらい、及び学習内容（活動プログラム内容）の視点から

<成果>

地域の課題を取り上げ、実践を伴う課題解決に取り組ませる際に、要所に地域人材を活用して専門知識に触れ、体験を通して学ぶことで一層の興味関心の喚起、及び探究活動の深まりと行動力の伸長をもたらすことができた。

<課題>

1年次では、調べ活動を中心とした活動がマンネリ化しつつあり、課題に応じて調べ学習やフィールドワーク等を積極的に取り入れた活動プログラムや学習内容の工夫を図らなければならない。2、3年次では、地域の伝統芸能指導者の高齢化が進んでおり、近い将来活動継続が困難になってくることが考えられ、継続していくための新たな手立てを考えていく必要がある。

2) 指導計画、及び指導体制、指導方法の視点から

<成果>

2、3年生において地域の伝統芸能の伝承課題について考え実践していく中で、地域のイベント等への出演依頼が多くなったことによって発表の機会が増え、地域から認められることで生徒が成就感や満足感を感じ、地域社会に貢献しようとする意識を高めることができた。

<課題>

3年間継続した指導によって活動のねらいを達成させるためには、指導する側の教員が地域のよさや現状、伝統芸能等についてより深く学び、そこに存在する課題について十分に理解して指導に当たる必要がある。

3) 育てたい資質・能力に対する児童生徒の変容, 評価の視点から

<成果>

地域の教育力「ひと・こと・もの」を活用した実践と, 実践した内容の発表の場を教科等においても設定したことで, 個々のコミュニケーション能力や表現力を養えた。また, 伝統芸能の伝承にかかわる課題に3年間継続して取り組ませることによって, 伝統を守りながら地域社会に貢献していこうとする意識を高めることができた。

<課題>

生徒が地域のよさを感じ取り, 課題意識をもって学ぶことにより「知りたい」「学びたい」という意識をさらに高揚させる循環を形成させるためにも, 事前学習の内容の工夫や新しい人材の発掘が必要である。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()